

# 長野県社会福祉士会

## NEWS

第204号  
2024/9/1



発行▶公益社団法人長野県社会福祉士会  
会長 吉澤利政  
事務局▶〒380-0836長野市南県町685-2  
長野県食糧会館6F  
編集▶広報編集委員会  
発行部数▶2,450部

TEL▶026-266-0294 FAX▶026-266-0339 E-mail▶info@nacsw.jp HP▶<https://nacsw.jp/>

どんな現場であってもソーシャルワーク	1
2024年度ソーシャルワーカーデー4団体主催企画	2~3
こどもの意見表明等支援事業スタート	4
中信地区 木曽ブロック交流会	5
南信地区学習会	5

### contents

特集 地域で虐待を防ぐための取組について	6~7
リレーエッセイ	8
信州ぐるっと!! ~県内の特色ある福祉活動を紹介~	8
今後の予定	8
編集後記	8

### 巻頭言

## どんな現場であってもソーシャルワーク ～実践からの気づき～

原 智 美（長野県社会福祉士会 副会長）

昨年、副会長に就任した原智美です。市役所に勤務しており、13年間は福祉現場でしたが、現在は「地域創造課」で自治会に係る補助金、イメージキャラクター担当等と携わり、主に事務をしています。異動した直後は、これまでの専門職として経験をどのように活かすのか?、ソーシャルワーク実践ができるのか?、そもそも事務だから、ソーシャルワークは必要無いのか?と、正直戸惑いました。しかし、職場での実践から「どんな現場であってもソーシャルワーク実践者である」という気づきを以下に記します。

市役所を就職先として選んだのは、制度・施策が生活を良くするものにしたい、市民が安心して暮らせる地域にしたい、と考えたからでした。次第に「いきいきできる地域」、それも「誰かではなく、住んでいる私たちでつくっていく」という思いに変化はしていきます。ただ、これは福祉現場に携わっているからできると考えていたので、異動になり、どんな方法を使うかピンときていませんでした。

そんな中、イメージキャラクターグッズについて、職員から「脱プラスチックのグッズはないの?」という声があがりました。「市から減らそうCO<sub>2</sub>」という取り組みをしているので、プラスチックの代替品が無いかという何気ない意見でした。新たに製作するなら、この地域らしいものを作れないか、という考えが浮かびました。『地域らしさ』は、ここに「暮らす人」であり、その方々へスポットライトをあてたいという思いました。

これがきっかけとなり、さまざまな方とつながり、一緒にイメージキャラクターグッズの製作をするプロジェクトを立ちあげました。製作を通して、お互いを知り、できることを考えたり、そして参加や活躍の機会をつくることを目指しています。

第1弾は、障がいのある人と紙製クリアファイルを作製しました。概要は、障害福祉サービス提供事業所から絵画を募集し、採用した作品をクリアファイルの図柄として印刷しました。作者に使用料を支払い、企業に協賛の依頼をしました。協賛にあたって、作者がなぜこの作品を描いたのか、好きな事や普段の過ごし方等を聞き取り、市職員が代弁者となり、企業に伝えて、作品を選んでもらいました。これは「同じ地域に暮らす人」「市をかたちづくっている人」として伝えたいという思いからです。

このように私が捉えている現状を職員や、関係機関等に共有し、なぜ取り組む価値や必要性があるのかと一緒に考え、市の計画等を根拠とし、方法をブラッシュアップすることで実現しました。

このことは、ソーシャルワーカーデーの空閑先生の「ソーシャルワークは、私たちが暮らす社会が人にやさしく寛容なものであるために、人々と連帯し、行動し、発信する実践である」そして、「ソーシャルワーク実践は、そこにいる一人を大切にする支援の営みであり、そこで暮らす人が大切にされる関係づくりや場づくり、地域づくりである」という言葉と結びつき、今回のプロジェクトは、ソーシャルワーク実践だと気づきました。願う地域づくりのため、できることを考えての方法でしたが、まさかイメージキャラクターグッズ製作がソーシャルワーク実践に結びつくとは、気づきもしませんでした。

私たち社会福祉士は、ソーシャルワーク実践者です。今ある資源を活かし、お互いに手を取り、補い合っていったら、どんな現場であってもソーシャルワーク実践の可能性が今よりもまた広がっていくのではないかと、私は考えます。

# 「ソーシャルワーカーの使命・専門性・可能性」を考えるフォーラム

ソーシャルワーカーの社会的認知を高めるため、社会福祉関係の全国17団体で構成するソーシャルケアサービス従事者研究協議会は2009年に「海の日」をわが国の「ソーシャルワーカーデー」とすることを決めました。長野県では今年度は7月27日に長野県医療ソーシャルワーカー協会主催によるオンライン及び対面でのフォーラム開催となりました。長野県精神保健福祉士協会、日本ソーシャルワーク教育学校連盟関東甲信越ブロック長野県支部と本会が共催して基調講演とシンポジウムが行われました。

## 【基調講演】新たな時代のソーシャルワークを拓く

～それでもかかわる、つながることをあきらめないソーシャルワークにある希望～

講師：空 閑 浩 人 氏（同志社大学社会学部社会福祉学科教授）

NHK連続テレビ小説「虎に翼」の一コマのなかで、主人公が訴えかけた一言にソーシャルワークの本分がある。人々と連帯し行動し発信する実践のなか「生い立ちや信念や格好で切り捨てられたりしない。男性か女性かでふるいにかけられない社会になることを私は心から願います。…いや、みんなでしませんか？しましょうよ！」と人々に呼びかけていく場面があった。NHK連続テレビ小説「らんまん」でも主人公の植物学者・牧野富太郎のいくつかの言葉に植物を知ることとソーシャルワークが重なる部分がある。一人ひとりのクライエントの存在を忘れてはいけないことやその人のことを知るとき、その人の暮らしている場所や家などに行き、実際に本人と会って話すことが重要である。



同志社大学の創立者・新島襄氏の言葉「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」や中山七里氏の小説「護られなかつた者たちへ」、糸賀一雄氏「福祉の思想」のそれぞれにソーシャルワーク実践の共通基盤として譲れないことが示されている。その人の人生や社会環境に焦点をあて、同じ社会のなかで、同じ地域のなかで生きて生活し、ともにあり、ともに考え、行動する営みそのものがソーシャルワークである。葛藤し続けながら実践し続け、そのプロセスこそがこの時代に求められる分野・制度横断的かつ包括的なソーシャルワークや相談支援のあり方や可能性を拓くことになる。その人が暮らす地域を意識し、姿を描くことや可能性をともに見出し行動していくことが必要となる。また、ソーシャルワークは人々の生活と社会の現実に無関心ではいけない。ソーシャルワーカーとして自分の目に見える個人情報だけでなく、その痛みや苦しみを伴った情報を知ろうとしているのか。わかったつもりでいることが、その状況への理解を誤るだけでなく、危険なことでもある。

昨今、支援の現場では地域のつながりもなく社会的に孤立した状態があり、サービス利用を拒むとか、支援者のかかわりを拒否する人々に出会うことがある。



自らの支援が受け入れてもらえない「支援拒否事例」「困難事例」という支援者が勝手にラベリングして共有してしまっていることがある。あらためてソーシャルワークにおける言葉とは何か、コミュニケーションとは何かを問い合わせし、考え続けることが求められている。当事者や地域の人々からこの人に相談したい、この人に話したいと言ってもらえる支援者になっているか。その人のとなりで同じ方向を向いて、同じ景色や音を聞きながら一緒に考える。専門家による専門家しか使わないような言葉でなく、当事者や人々の言葉によって、ソーシャルワークや支援のあり方を考え、語り合うことが必要である。

2020年からのコロナ禍でさまざまな社会問題や生活問題が顕在化した。私たちが暮らす社会は依然として、格差や貧困、差別や分断の問題を抱える状況がある。新時代といわれる状況の中に先の見通しが得られない、言い知れぬ不安感が漂うような空気感のなかで人々がゆとりや寛容さ、他者への想像力を失い、殺伐とした社会の雰囲気を感じる。複雑で不安定な時代である今こそ、社会福祉やソーシャルワークに携わる私たち一人ひとりにおいて、さまざまな創造的で開発的な思考と実践、すなわち挑戦が求められている。この時代と社会状況のなかで、今を生きる人々の地域社会の希望である。ともに前を向く、向ける、向こうと思える可能性に満ちた出会いになるようたくさんの人々と共有をしていきたい。



# 【シンポジウム】『希望を支えるソーシャルワークを考える』

基調講演を受けて後半は各所属団体を代表してシンポジストの皆様からソーシャルワーク実践とこれまでのソーシャルワーカーの立ち位置について発表をしていただきました。また、コメントーターである空閑浩人教授から提言をいただき、これからソーシャルワーカーの共通認識を参加者で共有し議論を深めました。

## 事例発表

### シンポジスト

尻無浜 博 幸 氏

(日本ソーシャルワーク教育学校連盟  
関東甲信越ブロック長野県支部)

養成校には、そもそも学生が集まらないという差し迫った課題がある。学生は講義を通して学び、実習でさらなる「リアル」と出会い、国家試験を通過して社会でその役割を担っていくのが一般的であったが、現在では学生の選択肢も多様化している。事業者は「いい学生がほしい」と求めるが、果たして誰にとって「いい学生」なのか。複雑化する社会のニーズはますます多様化し、ソーシャルワーカーの重要性も増している。社会制度が簡単には変わらない中、養成校として社会の期待に応えることのできるソーシャルワーカーを送り出すために、我々自身が支援のあり方や視点を切り替えていく必要がある。

### シンポジスト

東條 美帆 氏

(長野県医療ソーシャルワーカー協会)

医療現場のソーシャルワーカーとして勤務した15年間のなかで、出産や子育て、災害を経験し、それらがターニングポイントとなって現在はフリーランスで周産期の分野で活動している。

自分が立ち上げた子育てサロンでは、お母さん同士が送迎し合ったりご飯を作り合ったりする「助かり合い」が生まれてきて、これはすごいなおもしろいなど感じた。周産期の分野で病院のソーシャルワーカーが連携する先は保健師や助産師が多いが、自分たちのステージで対等に相談に乗り合う感覚がなかった。地域に周産期を専門とするソーシャルワーカーがいれば、病院のソーシャルワーカーと連携して制度につながることができないようなお母さんたちも含めたもっと幅の効いた支援ができるのではないかと考えている。

### シンポジスト

二宮 美和 氏

(長野県精神保健福祉士協会)

V U C A (物事が高い変動性をもち不確実で複雑、将来の予想が困難な)状態が続き、既存の価値観やビジネスモデルが通用しない時代。産業分野における実践を振り返り、ソーシャルワークの可能性を探る。

セイコーエプソンの特例子会社であるエプソンミズベでは、社員との面談、合理的配慮やユニバーサルデザインの環境調整、研修などをを行い、企業と連携・協働して職場のメンタルヘルスに取り組んでいる。

産業分野の精神保健福祉士は、社会的障壁の解消や、アンチステigma、自己実現、尊厳の回復などにかかっており、ここにソーシャルワークの可能性を見出すことができよう。このように、ソーシャルワークは柔軟に対応して多領域とつながり機能を果たすことから、これから不確実な変革の時代は、さまざまな可能性を探り取り組むことが重要と考えている。

### シンポジスト

片桐 政勝 氏

(長野県社会福祉士会)

子どもが学校に行かない選択をしたときに親が感じる「孤独感」から①つながりの貧困を解消したい②子どもの権利が護られているのか③課題の社会化の3点に着目し、ソーシャルワーカーとしてアクションを起こした。「ひらく～あづみの不登校を考える親の会～」をつくり、「つながる・つたえる・学びあう」をテーマに、公民館を活用して居場所づくりの活動を始めた。さらに近隣の団体と協働して「ここなら～中信地区こころをつなぐ不登校ひきこもりネットワーク」を組織した。課題を共有し合い対話をあきらめない熱い思いを伝えた。

### コメントーター

空閑 浩人 氏(前掲)

ソーシャルワーカー養成では、どんな学生も実習で学べる、いろんな職員が望んで働く場づくりのソーシャルワークという考え方大事。ソーシャルワーカー同士が「場」を共にして補いあう(=助かりあう)中に専門性や実践力というものがあると思う。当事者や家族のがんばりに頼るような自立支援ではなく、場所や関係が仕組み的につくられていけば、その人の生きていける場所が決まっていく。「学校に子どもが」ではなく「学校が子どもに」合わせる。社会、地域、学校で課題を共有することから「場」が開かれ、ソーシャルワークを開いていくことになる。



# 子どもの意見表明等支援事業 がスタート！

長野県社会福祉士会は長野県から委託を受け、2024年度から新しく「子どもの意見表明等支援事業」を開始しました。そこで、事業の概要と取り組みについて紹介します。

**目的** 社会的養護（※）に関わることもたちの「思い」を「かたち」にし、その思いが関係者や関係機関にしっかり尊重されるよう支援する

（※）社会的養護とは？ 保護者による養育が困難な環境のこどもたちを、社会全体で育てていく取り組みです。  
児童相談所、一時保護所、児童養護施設、里親家庭での生活、などがあります。

**背景** こどもはおとなに自分の意見を言いにくいことがある  
発せられた子どもの意見が十分に考慮されないケースがある  
こどもが自分に関することを決定する場に参加できていない

課題

↓ 児童福祉法の一部を改正！ ↓

こどもが意見表明する機会と意見表明を支援する仕組みを法制化！

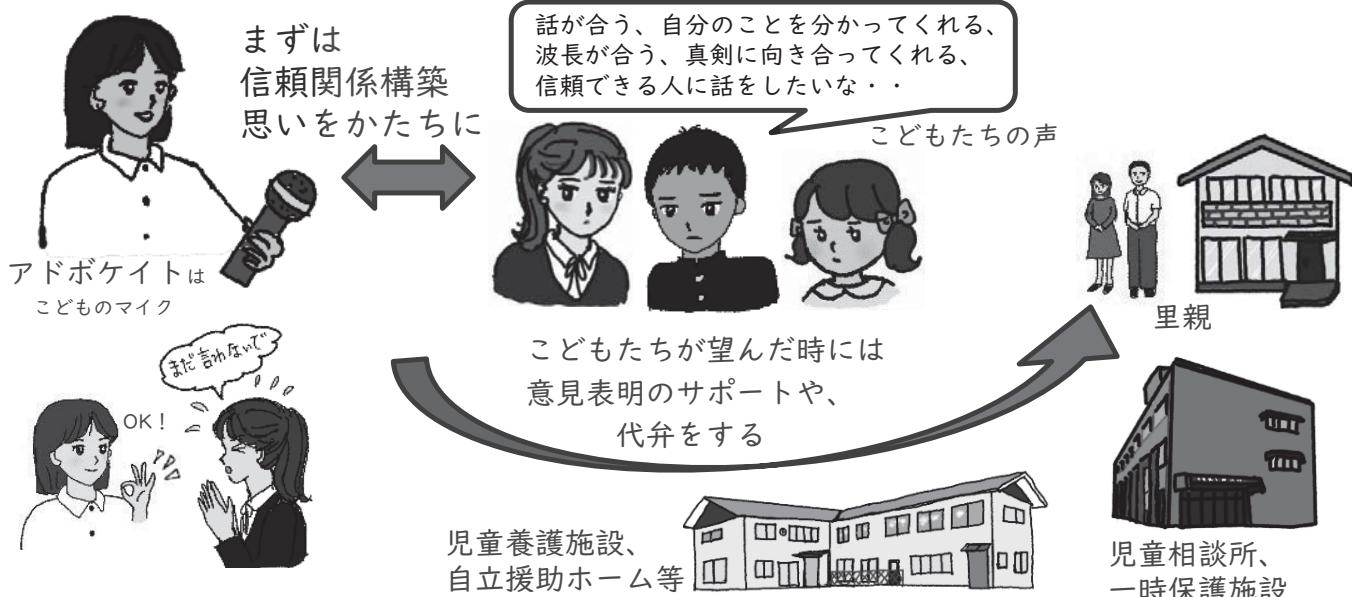
国：こどもの福祉に関し知識や技術を持ち、こどもから信頼される“意見表明等支援員”が必要  
長野県：長野県社会福祉士会に意見表明等支援員の養成、派遣、体制整備等を委託しました

## 子どもの意見表明等支援事業推進プロジェクトチーム を結成

### ①意見表明等支援員＝アドボケイト の養成、派遣

意見表明等支援員（アドボケイト）研修を受講し学んだこと

「子どもの意見の尊重」と「子どもの最善の利益」は、ときに激しく対立します。アドボケイトは100%  
こどもの側にたち、こどもの思いや願いを受け留め、ともに悩み考え、どうしたいかと一緒に決めていきます。



### ②関係者、関係機関への権利擁護に関する研修を実施

すべての関係者とアドボケイトが互いの役割を理解し、深い信頼関係のもとチームになることが不可欠

10/2 (水) 子どもの意見表明等支援事業について学ぶ学習会を開催します。ご参加お待ちしています。

## 中信地区 木曽ブロック交流会



松 谷 学 (社会福祉法人 大桑村社会福祉協議会)

7月20日(土)に木曽町「祭り茶屋だんぢり」において、中信支部交流会を開催しました。吉澤会長、上條前会長にも遠方からお越しいただき、木曽の「すんき」を使った創作料理「ゼラスそば」(すんきコンクール最優秀賞)や地酒の飲み比べを楽しむことができました。交流会の中では、それぞれの業務で社会福祉士として奮闘されている様子から、これからの地域共生社会の展望まで多岐にわたるお話をしながら「顔の見える関係」を築くことができました。中信支部は大北から木曽まで広域ではありますが、交流会を企画する「ズく」を惜しまず、切磋琢磨の機会は大切です。

木曽圏域では3か月に1回程度ですが、数名の有志で情報交換会を行っております。参加の制限は特にございませんので、ご興味をお持ちの方は観光がてらお越しください。



### 南信地区学習会

## 能登半島震災支援 これまで→これから ～私たちができる事・できた事を話し合おう～

南信地区学習会は7月31日、能登半島震災支援に関わった会員の活動を共有し、震災支援の活動や外部支援者としての支援の在り方などについて会場参加者とオンライン参加者で意見交換を行った。

進藤竜一会員と北原由紀会員を中心に活動報告がされた後、参加者からも避難所での支援活動をはじめ、災害ボランティア活動や、グループホームでの支援など、それぞれが関わった支援活動などを発表し共有を行った。また、支援にあたってはさまざまな専門チームとの連携が必要であることや、フェーズに合わせてどのような支援が必要なのかについて意見交換し、外部支援者



として関わる際は、地元にどう寄り添い、支援をつなげていくのかを考える機会となつた。参加者からは「現地支援をした振り返りができるよかったです」「これまで能登の震災支援は参加できなかったが、どのような支援が行われていたのかを知ることができてよかったです」という意見や「復興には時間がかかる。その時に合わせた支援を考えたい」という声が聞かれた。



### ☆長野県社会福祉士会への入会をお待ちしております！

長野県社会福祉士会は社会福祉分野だけでなく、医療・教育・行政など、幅広く活躍されている会員が多く所属しています。社会福祉士を取得して未入会のみなさま、ぜひ入会を通じてご自身のスキルアップやネットワークを広げてみませんか？

\*入会希望の方は、長野県社会福祉士会ホームページから入会資料をご請求ください。

## 特集

# 地域で虐待を防ぐための

### 東信地区

氏名：山岸周作  
所属：特別養護老人ホーム 愛灯園

#### 業務内容：

生活相談員として、特別養護老人ホームおよび短期入所事業所の入退所管理、入所者の方からの相談業務一般等を担当しています。

#### 癒しの時間：

特段の趣味を持たない私にとって、仕事を終えて帰宅後の家庭でのひとときが重要な癒しの時間となっています。わずかな?? 晩酌。そして、その後の子どもたちとの遊びの時間が翌日への鋭気を養ってくれています。



#### ①地域や職場で起きている虐待についての思い、考えていることは？

コロナ禍以降、一面では社会とのつながりが希薄化してきていることもあってか、在宅介護者による虐待と思われる事例に伴う措置入所の依頼が増えています。

特別養護老人ホームの立場としては、どうしても虐待発生後の対応にかかわる機会が多くなってしまっているのが現状です。しかし、社会福祉法人が運営する、特別養護老人ホームとして少しでも地域の虐待事例の減少にむけて積極的に関わりを持ち続けていかなくてはならないと考えています。

#### ②社会福祉士として自身が虐待を防ぐためにできることは？

まずは、入所申込（相談）の段階において、入所希望者の方だけでなく、介護者、ご家族の現状を正しく理解することを心がけています。

申し込みに来られる方の中には、すでに在宅介護の限界を感じ相談に見えられる方もいらっしゃいます。

そのような場合には、地域包括支援センター等の機関へ適切につなげができるよう、日頃より、多職種（多事業所）間の連携強化に努めています。

#### ③地域や職場全体が、虐待を防ぐためにできることは？

日頃から地域における、多職種・多事業所間におけるチーム作りを行っておくことが重要かと思います。介護者の方が限界を感じる前に関わりも持つことができる。そして、必要な機関が連携し早めの関わりを持つことができる環境・システム作りを行うことにより、早期発見・早期対応につながると考えます。

ただしその際、個人情報の取り扱いと、共有のタイミングには十分留意したいところです。我々が保護措置を受け入れるのは最終手段であり、本来の関係修復に向けた障壁を、こちら側からつくり出してしますことにもなりかねないからです。

### 北信地区

氏名：佐藤佑弥  
所属：社会福祉法人高水福祉会  
のぞみの郷高社

#### 業務内容：

日常生活が豊かになるように、ご本人の意思を尊重し、いくつかの選択肢から生活の場の提供、その方に必要な生活上のお手伝いをしています。時に、外出へ出かけたり室内でゆっくり過ごす環境を整えたりしています。

#### 癒しの時間：

旅行と食べることが大好きなのでどこかに遊びにいく、ご飯食べにいくことが癒しの時間です。また、夢の国が大好きでディズニーリゾートに行っている時間は癒しの時間です！



#### ①地域や職場で起きている虐待についての思い、考えていることは？

虐待について、近年いろいろなことが起きている中で感じることは、施設支援という狭い世界の中で、支援者は一人ひとりに向き合いたいという気持ちはあっても、大勢いる利用者全員へは支援が回らない、現実のもどかしさを感じています。また、そこからくる余裕のなさも虐待につながっているのではないかと感じております。

#### ②社会福祉士として自身が虐待を防ぐためにできることは？

自分が虐待を防ぐためには、社会福祉士会や近くにいる社会福祉士や多職種の方との交流や相談をすることが大切だと思います。自分一人で悩んでも答えがないことや憂鬱になってしまって、話をすることで新しい気づきをもらうことができると思うので、これからも実施ていきたいです。また社会福祉士会で行われている研修などに参加して自己研鑽をしていくことは大切なことだと考えています。

#### ③地域や職場全体が、虐待を防ぐためにできることは？

社内での虐待に対する研修や「こんな時どうする」など、話し合える時間を設けることや日常的にコミュニケーションを取りながら悩みや困っていることを話すことができるようになることで、困っているのは自分だけではない、話を聴いてくれる人がいると共有できるので、虐待の芽を摘み取る第一歩になると思います。

# 取り組みについて



社会福祉士は、高齢者・障がい者等の虐待防止に関する法律に規定されている虐待防止の対応にかかる協力者としての役割があります。弁護士との協働による専門職チームでの虐待対応支援をしています。今回は、それぞれの立場での地域における虐待対応の取り組みについて、各会員から寄稿いただきました。

## 中信地区

氏名：青木 崇

所属：社会福祉法人中信社会福祉協会  
障害者支援施設 共立学舎

### 業務内容：

障害者支援施設で支援課長、サービス管理責任者をしています。各関係機関との連絡調整、職員研修の計画、実施、事故対応、入所されている皆さんの生活全般について相談受付などを行っています。

### 癒やしの時間：

月に1度ほど一人でキャンプに出かけています。焚火をしながらお酒を飲んで過ごす時間が息抜きになっています。



### ①地域や職場で起きている虐待についての思い、考えていることは？

障害者施設における虐待の要因としては、人手不足や業務量の増加などからくる支援者のストレスによるものや支援者の知識や技術不足からくる支援方法の未熟さによるものが考えられます。職場における人材の確保、業務の見直しが急務であることはもとより、支援者は常に自らの知識、技術の研鑽に励み、支援態度や支援方法を謙虚に見直す必要があると思います。

### ②社会福祉士として自身が虐待を防ぐためにできることは？

虐待につながる小さな芽にいかに早く気づくことができるかが重要なことだと感じています。どんなことが虐待にあたるのか？ 何を大切にすれば良いのか？ どんなことに気をつけばいいのか？ 私個人だけでなく職場の仲間と一緒に考えて行ける雰囲気作り、チームづくりを取り組んでいきたいと思います。

### ③地域や職場全体が、虐待を防ぐためにできることは？

皆が意見を出しやすい職場の雰囲気づくりが大切だと思います。日々の支援の中で支援者一人ひとりが悩まない、孤立しない、気軽に相談できる環境やチーム作りが必要だと考えています。また職場の仲間には各種研修への参加機会を提供し、知識と技術の向上を図れる様に配慮していきたいと思います。

## 南信地区

氏名：池上 修

所属：社会福祉法人伊那市社会福祉協議会

業務内容：地域福祉課長兼上伊那成年後見センター所長  
地域福祉課事務統括

上伊那成年後見センター上伊那広域業務  
重層的支援体制整備の統括

### 癒やしの時間：

一人気ままに旅行に行くことです。ただ運転して疲れない範囲なので車で片道4～5時間くらいの場所限定です。



旅先でB級グルメを探し並んで食すのがこの上ない癒しです。

### ①地域や職場で起きている虐待についての思い、考えていることは？

虐待をすることは許されることではありませんが、虐待するに至ってしまった背景を知ることは必要であると感じます。経済的なことや介護のことなどさまざまな問題を抱えている中で周りに相談できず一人で悩んでしまい虐待に至ることもあると思われ、周囲の気付きやサポートがあれば防げる虐待もあるのではないかと考えます。ただ周りが気付くこと自体がなかなか難しい現状もあると思われれます。

### ②社会福祉士として自身が虐待を防ぐためにできることは？

虐待に至る前の予兆が必ずあると思われるのでは、それを見逃さないように日々の様子や言動などに気を配り、変化があった際には話を聴くなどの対応を行っていくことが必要だと思います。ただ、本人が虐待と認識していない場合もあるため内容を丁寧に聴き取り、状況の把握を行い、本人の気持ちに寄り添うように心がけることも重要だと思います。そのためにまずは、とにかく話を聞くことから始まると思います。

### ③地域や職場全体が、虐待を防ぐためにできることは？

小さな変化に気づくことや、気づいたら関係機関へ連絡を入れることは虐待防止のために求められている行動ですが、実際には関係機関へ連絡を入れる等できないこともあると思います。直接的に連絡ができなければ、身近な相談窓口として社会福祉士が話を聞き伝達することも必要であるのではないかと思います。

リレーエッセイ～リレー形式の寄稿～

## 地域づくりのリスタート～つながりが暮らしを元気に～

高梨のぞみ（グループホーム旧軽井沢）

学友である中村さんよりバトンを受け取りました。グループホーム旧軽井沢では、4月より新たな試みとして“旧軽café”を月に一度、開催しています。

コロナ禍において、地域の方との交流、外出が難しい状況を経て、地域のつながりがグループホームのご利用者やスタッフの元気の源だということを改めて実感し、スタッフ一同気持ちを新たに、今、再び地域づくりに励んでいます。

旧軽caféは、“困りごとがある人もいない人も子ども大人も気軽に参加できる場”として、どなたでも参加できます。そして“顔なじみになり、いつでもお互いに助け合える事業所”を目指します。caféを機に、普段も地域の方がグループホームに足を運んでくださるようになります。ボランティアさんの活躍によるワークショップやトークショー、お茶会等、試行錯誤しながら運営中です。

まだまだ始まったばかり。これからも地域の皆さん、学友、小規模事業所仲間、社会福祉士会の皆さんと、熱い思いの分かち合いと学びを通して、地域のつながりと暮らしを追求していきたいと思います。皆さまのご参加をお待ちしております。



10月は収穫祭 B B Q を企画中です

\*次号は、御代田町社会福祉協議会 小林 郁絵さんにバトンをつなぎます。

## 信州ぐるっと!! ~県内の特色ある福祉活動を紹介~

### 豊丘村高齢者等見守りネットワーク模擬訓練 ～「認知症でも安心して暮らせる村づくり」を目指して～

片桐大寿（豊丘村健康福祉課福祉係）



豊丘村では、地域で暮らす認知症の方の見守りには、地域住民の協力が不可欠で、認知症を理解して気に掛けてくれる方を増やす必要があるとの考え方のもと、『豊丘村高齢者等見守りネットワーク模擬訓練』を、役場・社会福祉協議会・地域協同で毎年1回開催しています。

この訓練では、開催地区内を巡回する認知症高齢者役に対して、地区住民が声かけを行い、心配な高齢者を見かけた際の声かけや見守りを体験します。併せて、見守り用福祉用具機器やオレンジカフェのデモンストレーションも行っています。また、訓練に先立ち、地区住民を対象とした認知症サポーター養成講座を開催し、地域で認知症をテーマとした学習機会を持っています。なお、訓練は住民を主体としながら、運営に地区・福祉・医療・警察等も関わることで、顔の見える関係づくりにもつながっています。

訓練と事前の認知症サポーター養成講座の開催を積み重ねることで、地域で認知症の方を見守る「心」と「目」が育まれ、「認知症でも安心して暮らせる村づくり」につながるよう、今年度は10月に開催が計画されています。

### 今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ (<https://nacsw.jp/>) をご確認ください。

日時(曜日)	事業名・研修名	会場	備考
11月15日(金)	累犯障がい者・高齢者支援を考えるセミナー	オンライン	講師：才門辰史氏
11月17日(日)	第4回 理事会		
11月30日(土)	倫理綱領・行動規範研修	豊科ふれあいホール	

◎入会状況(2024年7月末現在) \*会員数：1,256人 入会率：24.17% 人口10万人あたりの会員数：62.67人

### 編集後記

ソーシャルワーカーダーにおける基調講演やシンポジウムを受けて、誰もが経験したことがない時代の中で、さまざまな分野を超えて社会への希望や自身の実践を仲間と共有という言葉よりも自身の本心を含めて語り合う時と場が必要なのではないかと考えさせられた。クライエントの想いだけでなくそこに関わる関係者や職場などの仲間、そして自身の支援者としての経験や想いにも向き合い、希望を忘れず新たな創造を語り合うことも今後のことよりよい支援につながっていくと感じた。（Y.K）